

イノベーションが起こる地域社会創造に向けて
— 飯田市の取り組みを事例に —

2016年10月27日

飯田市長 牧野光朗

飯田市の概要

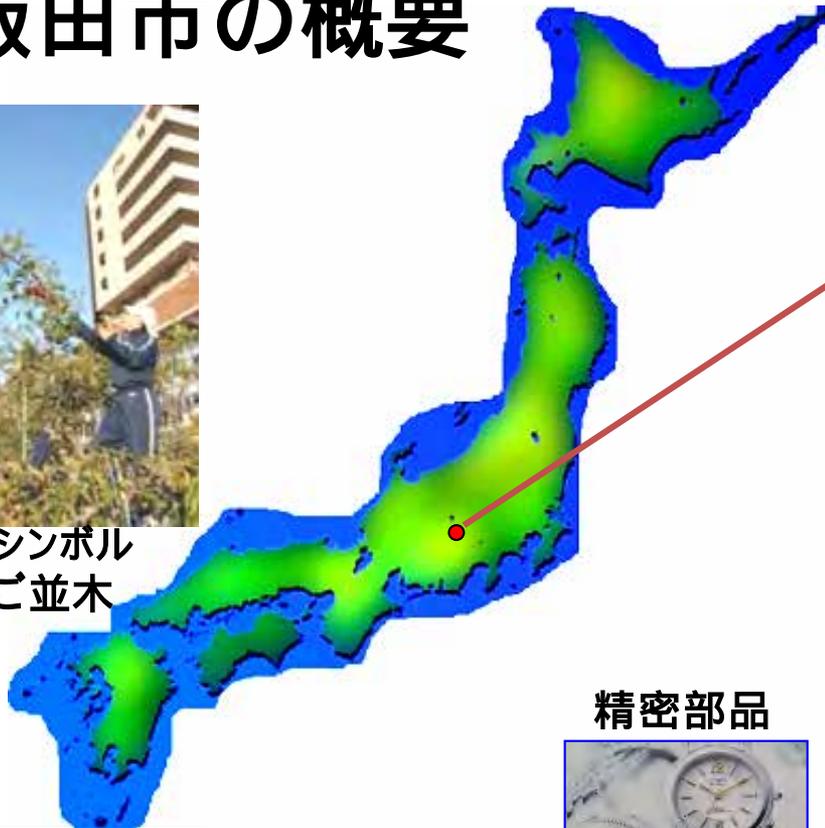
多様な自然・風土・文化

面積	658.66km ²
人口(H28.9.30)	103,624人
世帯数(H28.9.30)	39,755世帯
標高(市役所)	499.02m
日照時間(2010年)	1,946.7時間
森林面積(割合)	全市域の84.6%



街のシンボル
りんご並木

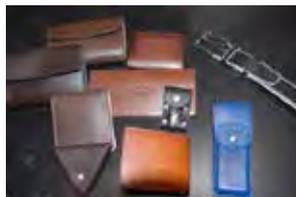
多様な主体によるまちづくり



伝統産業

革製品

(ブランド名:
南信州飯田工房)



精密部品



多様なものづくりの集積地

環境産業



市田柿



人形劇のまち

右肩下がり時代の課題克服に向けて

右肩下がり時代の「三重苦」

・人口減少、少子化、高齢化

(子育て世代が出生率の最も低い首都圏に一極集中、人材サイクル構築がされていない)

地方創生
本部

・国も地方も財政難

(国の借金は1千兆円以上、地方は国の下支えを期待できない、公共施設の老朽化も課題)

経済財政
諮問会議
(専門調査会:
経済・財政一
体改革推進委
員会)

・自立心の欠如 = 大都市も 地方も「受け身の社会」

(行政サービスの「受け手」に留まる大都市の住民、行政への依存心が強い地方の住民)

地域の課
題解決の
ための地
域運営組
織に関する有識者
会議

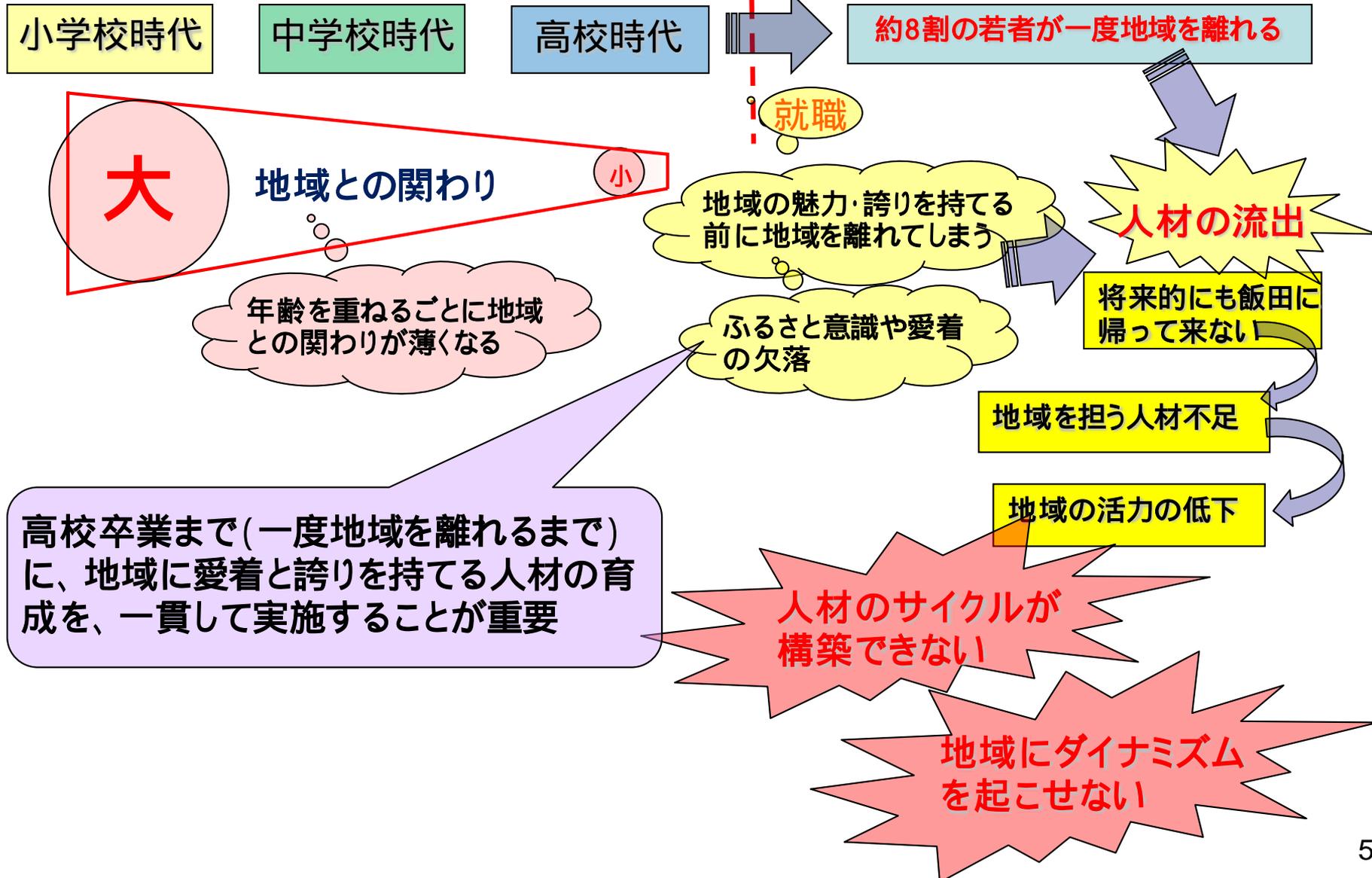
「三重苦」は相互
に深く関連、これら
を克服する総合的
な処方箋が不可欠

真の「地方創生」

(内閣府での役割分担)

人材サイクル構築が出来ないと...

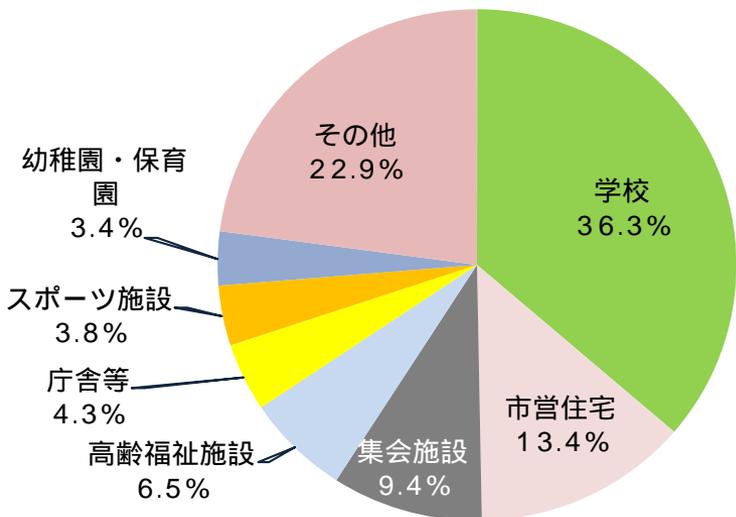
【現 状】



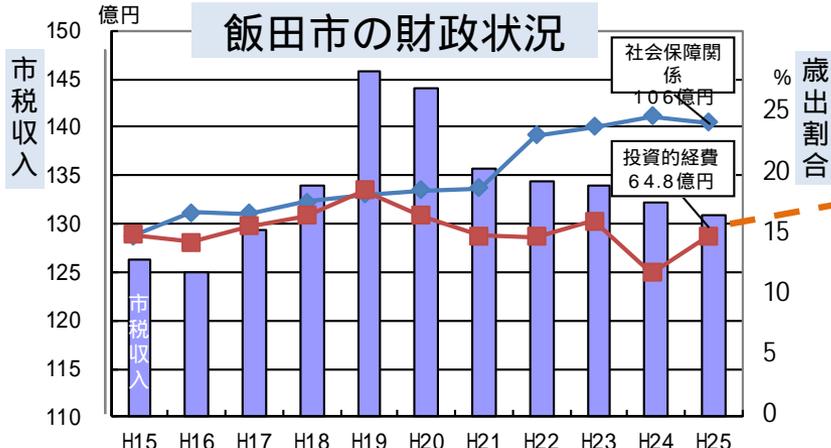
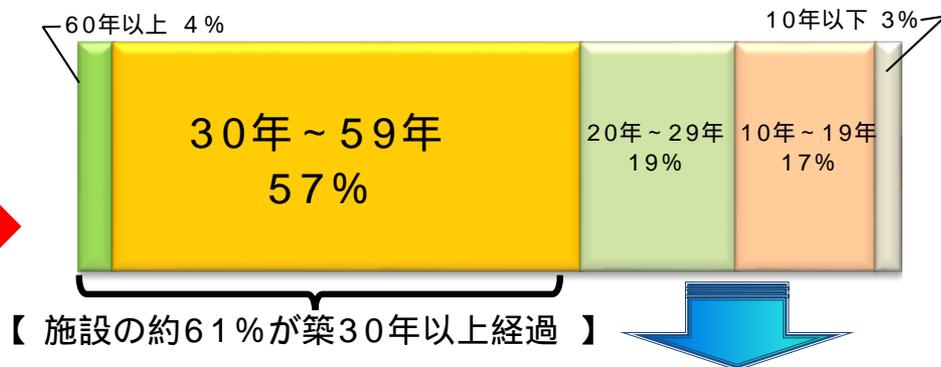
飯田市の公共施設の現状

- ・半数を超える公共施設が築30年以上を経過している。(公共施設・・・建物施設を対象。H25年末825件)
- ・今後、老朽化に伴う大規模修繕や建替えなどに多くの費用が必要となる。

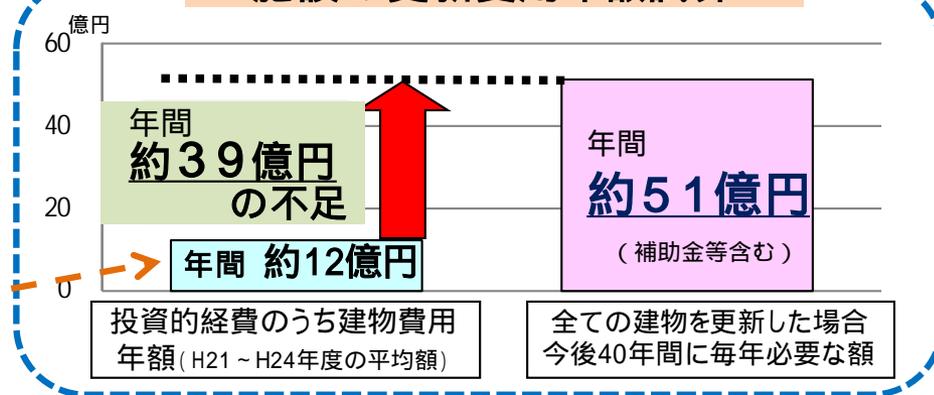
公共施設の延床面積の割合



公共施設の建築年別の割合

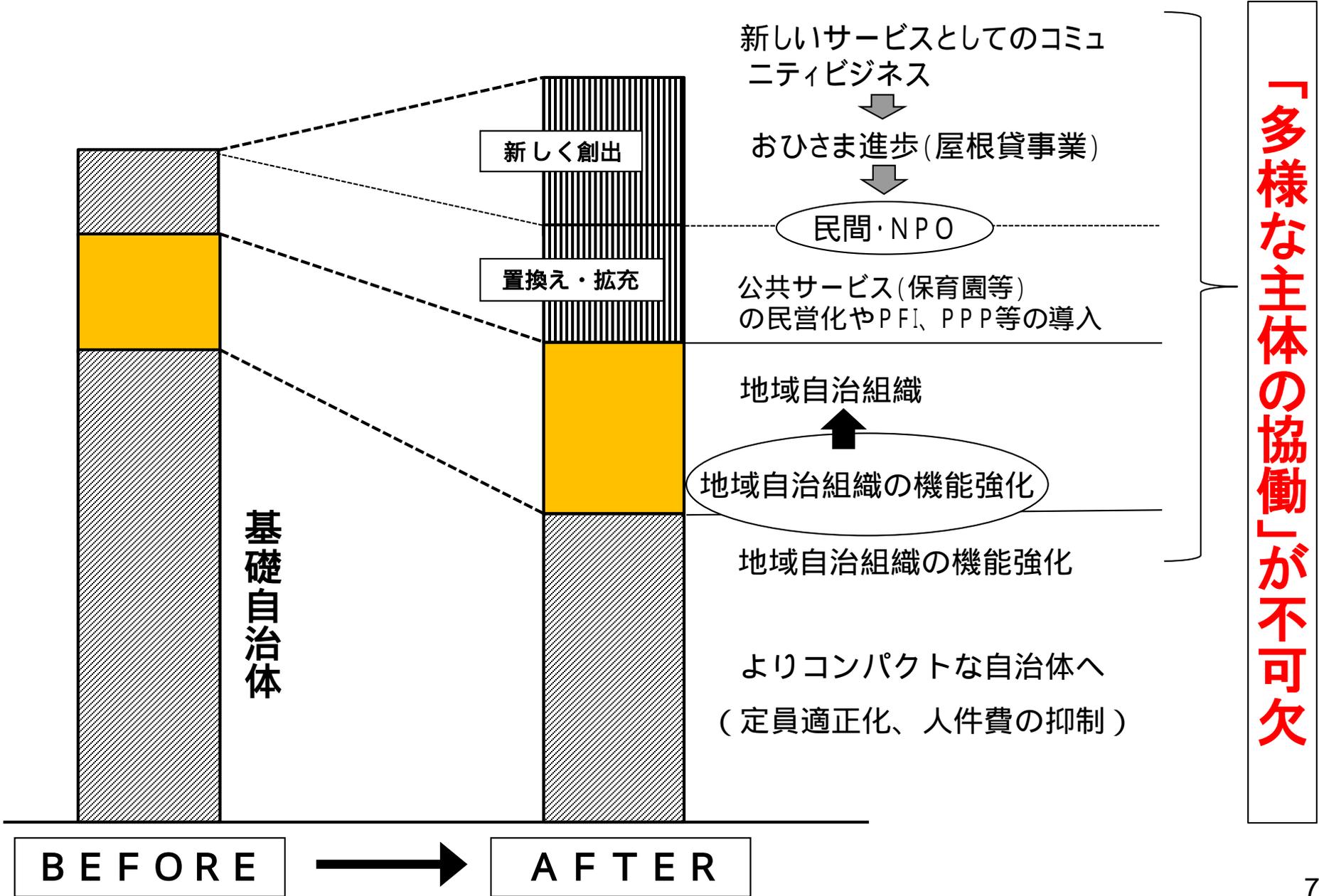


施設の更新費用年額試算



現在保有する全ての公共施設を
そのまま維持することは極めて厳しい状況

基礎自治体（市町村）の行政サービスの範囲（イメージ）



先進優良事例(イノベーション)の横展開

どうすればできるのか？

事例集をつくっても…



先進地に視察に行っても…



「自分の地域では、できないなあ」というつぶやきが聞こえてくる



横展開を図るための考察 ①

飯田地域の先進的な取組



どうしてこんなに先進事例が出てくるのか？

横展開を図るための考察 ②



**イノベーションを起こす地域産業振興策
(事例: 飯田地域の航空宇宙プロジェクト)**

飯田地域の航空機産業参入にみるクリエイティビティの発現 (偶然に頼らない「背伸び」の継続によるイノベーション)

地域の経済自立度向上(「見える化」による価値観の共有)

(公財)南信州・飯田産業センター
共創の場

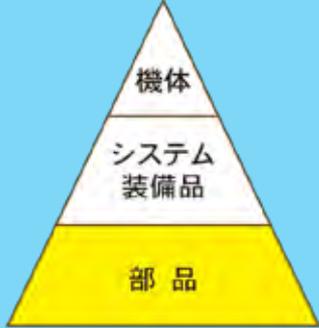
当事者意識の醸成

協働スキームの形成

新分野の育成

航空宇宙プロジェクト

JISQ(AS)
9100
取得27社
(当初 1社)
(長野県内35社中)



(試行錯誤をしながら高付加価値追求)



共創の場

南信州広域連合
共創の場

エアロスペースIIDA(事業主体の設立)
現在10社(当初 5社)

リレー生産体制(飯田のリレー方式)の構築

航空宇宙産業クラスター拠点工場

旧県立飯田工業高等学校の施設を活用した知の拠点整備

信州大学航空機システム共同研究講座(新分野に必要な人材育成)

信州大学航空機システム共同研究コンソーシアムの形成(産・金・官の協働)

(参考) 南信州定住自立圏(飯田地域)の経済自立度

～地域経済活性化プログラム 目標:地域の経済自立度70%～

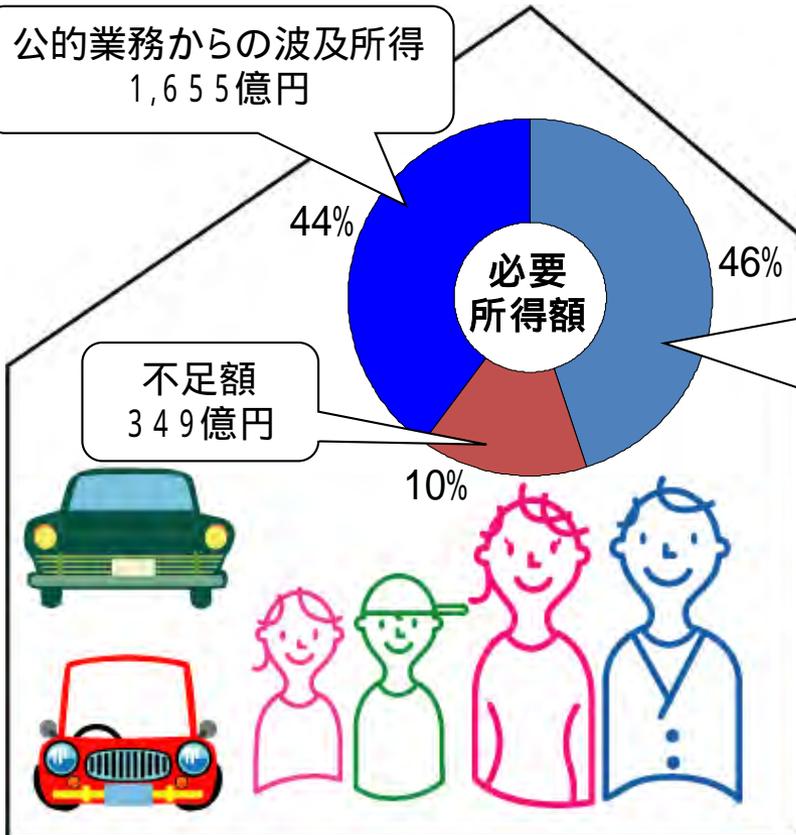
国の支援が減少しても
自立できる地域づくり

・地方分権一括法施行(H12.1)
伴う三位一体改革
背景:膨大な財政赤字

H15	自立度→43.5%
H19	自立度→54.9%
H21	自立度→42.2%
H22	自立度→47.7%
H23	自立度→45.7%
H24	自立度→47.2%
H25	自立度→47.6%
H26	自立度→50.1%
H27	自立度→49.3%

H26・27は推計値

公的業務からの波及所得
1,655億円



H13の経済自立度は46%
地域産業からの波及所得
・工業 1,398億円
・農林業 240億円
・観光業 82億円
計 1,720億円

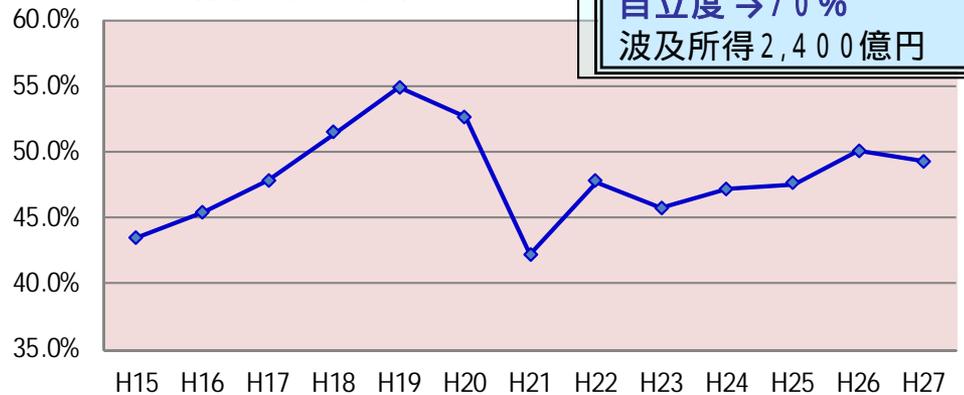
H20 リーマンショック
H23 東日本大震災

当面目標: H28
自立度→55%
波及所得1,900億円

最終目標:
自立度→70%
波及所得2,400億円

地域住民17万8千人の必要所得は 3,724億円
(地域経済活性化プログラムの対象は南信州圏域全体の住民)

経済自立度の推移



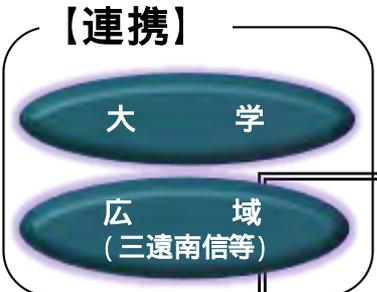
ものづくりの高度化・高付加価値化

(公財)南信州・飯田産業センターの移転と機能強化

- ・技術の高度化、新たな分野への挑戦を支援する研究開発機能
- ・企業の研究開発を支援する公的試験場としての試験・検査機能
- ・高い技術力を持つ人材の育成を進める機能
- ・インキュベート機能、情報発信機能、異業種連携の推進

【課題】

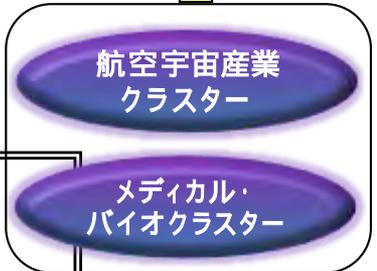
- ・新分野の研究開発機能と専門的な人材育成
- ・(公財)南信州・飯田産業センターの狭隘化・老朽化
- ・公的試験場の機能強化の必要性



平成24年 (公財)南信州・飯田産業センター



EMCセンター
工業技術センター



共創の場

- 人材育成支援
- 販路開拓支援

- 新産業創出支援
- 地場産業高度化
ブランド化支援

【社会情勢の変化】

- ・グローバル化の進展
- ・海外シフトによる国内空洞化
- ・リーマンショック、東日本大震災等

【地域を取り巻く環境変化】

- ・南信州定住自立圏形成協定締結
- ・三遠南信地域広域基本計画策定
- ・公益法人の見直し

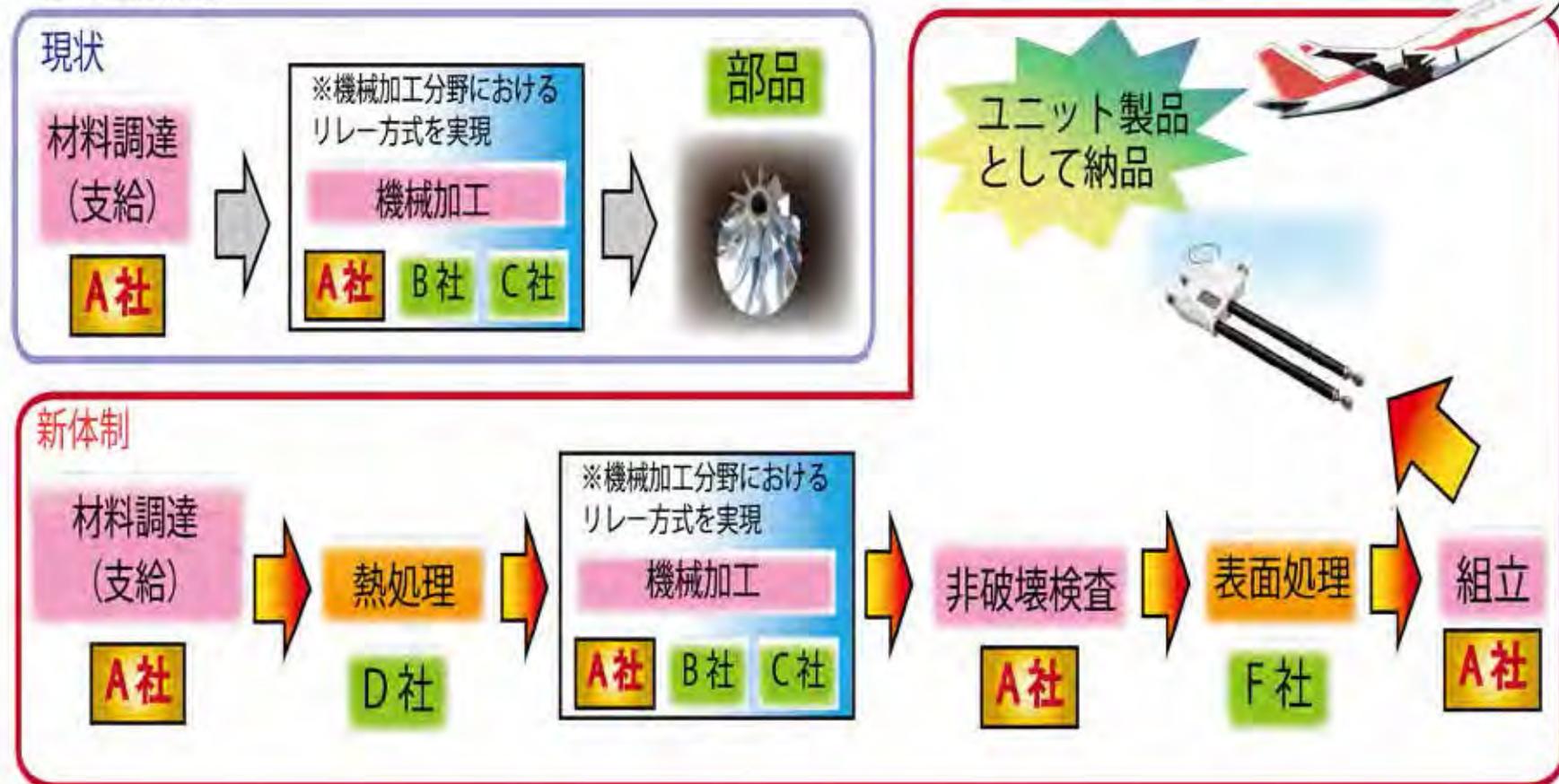
(財)飯伊地域地場産業振興センター

設立：昭和58年 長野県・市町村、企業が出資し法人設立
目的：地場産品の情報発信・展示・販売

(参考) 地域内一貫生産・受注体制の構築

※平成25年度に新たなチャレンジとして、産官が連携して足りない技術工程を補完できる工場を整備することにより、地域内の一貫受注体制とリレー生産体制の構築を目指している。

※A社=中核企業



(参考) 航空宇宙産業クラスター拠点工場

目的

航空宇宙産業における特殊工程技術(熱処理、表面処理、非破壊検査)機能を有する「航空宇宙産業クラスター拠点工場」を整備することにより、地域内で実施可能な工程幅を広げ、地域内一貫生産体制を確立する。



熱処理工場棟



表面処理工場棟



南信州・飯田産業センター
航空宇宙産業クラスター拠点工場

熱処理工場棟:平成26年3月 竣工
表面処理工場棟:平成26年9月 竣工

入居企業

熱処理:多摩川パーツマニュファクチャリング(株)
非破壊検査:多摩川パーツマニュファクチャリング(株)
表面処理A,B:多摩川パーツマニュファクチャリング(株)
営業:エアロスペース飯田

事業費

- ・総事業費:557,098千円
 - 熱処理工場棟工事:325,973千円
 - 表面処理工場棟工事:231,125千円

・資金調達

国庫補助金:211,692千円

(経済産業省「地域企業立地促進等共用施設整備費補助金(H24・H25)」)

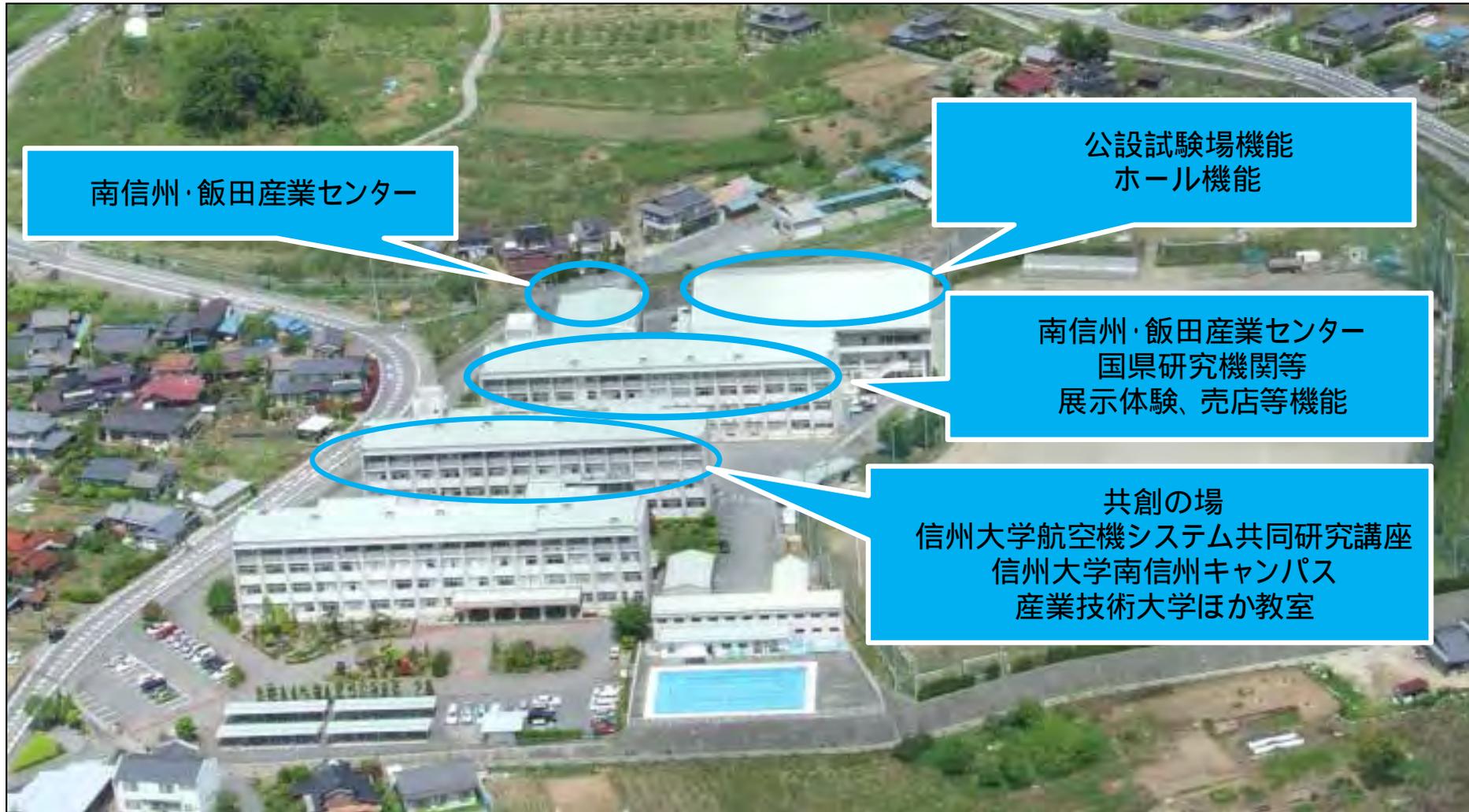
県補助金:50,000千円

(長野県「航空宇宙産業育成強化支援事業補助金(H25・H26)」)

市補助金:30,000千円

(飯田市「航空宇宙産業クラスター拠点整備事業負担金(H25)」)

(参考) 旧県立飯田工業高校の施設を活用した知の拠点整備



所在地：飯田市座光寺3349-1
土地：29筆 46,705.47m²

施設竣工：平成元年
建物：14棟 14,489.36m²

航空機産業振興に資する知の拠点を形成するために、信州大学サテライトキャンパスを設置し、航空機システムの研究開発と高度人材育成を行う。

JAXAから専任教授 柳原 正明氏



特任教授、特任准教授、コーディネーターの3名で講座を運営する。

卒業研究学生、修士・博士課程学生の教育研究指導
 地域企業との共同研究、
 国家プロジェクトへの参画
 信州大学航空宇宙システム
 研究センターとの連携による
 プロジェクト推進

信州航空機システム共同研究コンソーシアム

飯田市、南信州広域連合、南信州・産業センター、長野県、地元金融機関、信州飯田地域企業で信州航空機システム共同研究コンソーシアムを組織し、信州大学「航空機システム共同研究講座」の運営をサポートする。



信大の航空機システム講座の支援組織が決定
 信大の航空機システム講座の支援組織が決定。関係者による打ち合わせが行われ、支援組織が決定した。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。

信大の航空機システム講座の支援組織が決定。関係者による打ち合わせが行われ、支援組織が決定した。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。

現場や出口重視の研究を
 専任教授の柳原正明氏
 信大の航空機システム講座の支援組織が決定。関係者による打ち合わせが行われ、支援組織が決定した。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。

婚活イベント
 参加者を募集
 信大の航空機システム講座の支援組織が決定。関係者による打ち合わせが行われ、支援組織が決定した。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。

17年4月の開設を目指す
 8団体参加し今後募集も
 信大の航空機システム講座の支援組織が決定。関係者による打ち合わせが行われ、支援組織が決定した。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。

運営支援の共同体発足
 信大の航空機システム講座の支援組織が決定。関係者による打ち合わせが行われ、支援組織が決定した。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。

南信州
 信大の航空機システム講座の支援組織が決定。関係者による打ち合わせが行われ、支援組織が決定した。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。



専任教授に就く柳原正明氏

飯田
 信大の航空機システム講座の支援組織が決定。関係者による打ち合わせが行われ、支援組織が決定した。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。

きょうの紙面
 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2
 求人におわり需要も

信大の航空機システム講座の支援組織が決定。関係者による打ち合わせが行われ、支援組織が決定した。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。関係者は、信大の航空機システム講座の運営に協力する。

イノベーションを創出する「広域連携」と「社会資本整備」の連動

アジア最大・最強を目指す「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」

日本の航空機・部品生産額の約5割を占める我が国最大の航空宇宙産業集積地「愛知・岐阜・三重地域」



さらなる集積と機能強化

研究開発から設計・開発、飛行試験、製造・販売、保守管理までの一貫体制を構築し、アジアの新興国等の追随を許さない、一大集積地を形成

【長野県・静岡県を新たに区域拡大】

飯田下伊那34企業及び

6自治体(長野県を含む)が参画

平成26年2月18日 推進協議会にて拡大承認

同年 4月21日 国へ区域変更申請

同年 6月26日 国による区域の指定

同年 8月29日 国へ事業計画変更報告

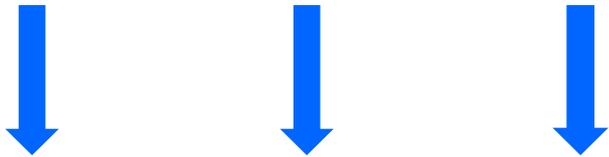


凡例	アジア No.1 航空宇宙産業クラスター形成特区指定地方公共団体
	アジア No.1 航空宇宙産業クラスター形成特区指定企業
	三遠南信地域 (東三河・南信州・遠州地域)

「広域連携」と「社会資本整備」の連動

- カンフル剤からイノベーション誘発剤へ

国等の社会資本整備（道路、鉄道等）



A地域の
生産性向上

B地域の
生産性向上

C地域の
生産性向上

社会資本整備により各地の生産性向上を促せば・・・
（**カンフル剤**としての機能）

B E F O R E

広域連携

東三河
地域

遠州
地域

南信州
地域

SENA **共創の場**

（三遠南信地域連携ビジョン推進会議）



国等の社会資本整備（三遠南信道路、
リニア等）

広域連携を強力に推進している圏域に社会資本整備を投入
（**イノベーション誘発剤**としての機能）

A F T E R

イノベーション

ナレッジ・リンク：イノベーション創出が期待される広域連携を目指す

【ナレッジ・リンク】メガリージョン内外で、知の創発拠点をつないで、**活力ある知の集積**をもたらす

うめきた

【ナレッジ・キャピタル】

- ・梅田貨物駅を中心とした大阪駅北側において『「知」をベースに、新しい価値創りと社会変革を。』をコンセプトとして再開発
- ・主な施設：関西大学、大阪大学、(独)医療基盤研究所等



ささしまライブ24

【ささしまライブ24地区】

- ・旧国鉄笹島貨物駅跡地において再開発事業が進行
- ・主な施設：グローバルゲート(仮称)(オフィス、ホテル等に利用)※、愛知大学等 ※2017年度開業予定



品川

【品川駅】

- ・山手線新駅を含めたエリア開発
- ※2020年オリンピックパラリンピック競技大会にあわせた暫定開業を予定



関西文化学術研究都市(けいはんな)

- ・国、民間合わせて117施設(H25.1)を擁する文化・学術・研究拠点
- ・主な施設：同志社大学、関西光科学研究所、国立国会図書館関西館



筑波研究学園都市

- ・国、民間合わせて約300に及び研究機関、企業を擁する我が国最大の研究開発拠点
- ・主な施設：筑波大学、(独)産業技術総合研究所等



イノベーションを起こす中心市街地活性化策
(事例:飯田市のりんご並木まちづくりネットワーク)

飯田の街中の賑い創出にみるクリエイティビティの発現



りんご並木
(飯田のまちづくりの原点)



中心市街地の再開発
(りんご並木周辺の空間整備)

りんご並木まちづくり
ネットワーク

ネットワーク運営の原則
自主性
皆が協力していこう

共創の場

人形劇のまちづくり
人形劇カーニバル

人形劇フェスタ
(日本最大の人形の
祭典へ発展)

丘のまちフェスティバル
国際フィギュアマーケット
(サブカルチャーの祭典として発展)

痛車
展示

痛タク
街中のタクシー会社
全6社が協働



(参考) りんご並木(飯田のまちづくりの原点)

昭和22年飯田大火

- ・ 3577戸を消失
- ・ 市街地の2/3を消失
- ・ 約72ヘクタールの区画整理を実施



りんご並木の誕生

- ・ 大火後の昭和28年、地元中学校生徒たちが「自分たちの手で美しい街をつくらう」という夢を抱き、40本のりんご並木を植樹



りんご並木のもたらしたものの

- ・ 地域に対する誇り
- ・ 「自らのまちを自らで守り育てる」
- ・ 「まちづくりの基本精神」

【りんご並木の変遷】



区画整理実施後
(昭和27年)



昭和60年頃



現在

(参考) 中心市街地の再開発

活性化の取組 まちなか居住の推進と複合機能の整備

- ・子どもから高齢者まで 様々な世代が主体的に活動できる
- ・まちの機能を活かして、それぞれのライフステージに応じた暮らしや活動ができる

モーニング・ウォーク



オープンカフェ



市民サロン (学習の場)



動物園



フィールド スタディ



まつり



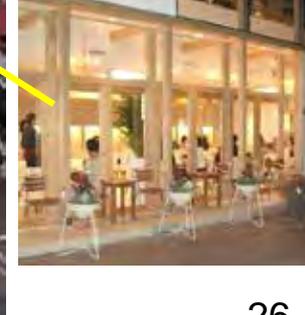
足湯



電動小型バス



域産域消レストラン



(参考) 人形劇のまちづくり

刻まれた300年の歴史

かつて伊那谷には29の人形座があった。
現在、伊那谷に4座(飯田市に2座)が伝承。
人形師を迎え入れて、技術を高めた。



在銘最古のかしら



黒田人形
(国指定重要無形文化財)

人形を常設展示する地域人形劇センター

川本喜八郎人形美術館

平成19年3月オープン

人形美術家川本喜八郎氏は「この飯田の地こそ人形たちに一番ふさわしい場所」と語り、人形200体余を寄贈。

人形劇センターの設置

「小さな世界都市」の実現に向け、人形劇に関わる多様な主体への専門的な支援(人形劇文化向上への貢献)



川本喜八郎作
「諸葛亮孔明」

国内最大の人形劇の祭典 今年38回目を開催

いいだ人形劇フェスタ

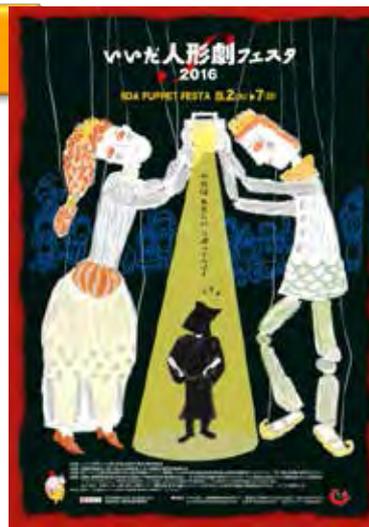
1979年(国際児童年)「人形劇カーニバル飯田」として第1回開催
1999年 市民主体(実行委員会)の「いいだ人形劇フェスタ」になる
【フェスタ2015の実績】

観劇者数 : 40,575人

参加数 : 326劇団(劇人1,745名)

公演数 : 457公演

ボランティア数 : 2,245人



いいだ人形劇フェスタ

(参考) りんご並木まちづくりネットワーク



りんご並木活性化事業
(歩行者天国 3月～11月に月1回開催)
りんご並木まちづくりネットワーク
(所属団体約30団体)



(参考) 丘のまちフェスティバル

11/3 AM 11:00 PM 4:00

第10回 飯田 丘のまちフェスティバル

2016 10周年

イメージソング発表!!

コスプレ大発表!!

インターネットマイフェアマーケット

三信南信グルメサミット (しんせいのグルメ)

80%

10周年記念

http://mamiyachan.com

- 平成19年に「人形劇のまち飯田」にちなみ、フィギュアをテーマにしたフリーマーケットを開催。
- その後、南信州ご当地グルメ、コスプレ・痛車などのサブカルチャーのイベントも加わり、「飯田丘のまちフェスティバル」として、毎年30,000人を超える来場者でにぎわっている。



(余談) 飯田でタクシーを呼ぶ時、「痛タクで」と言うと…



自立志向のクリエイティブ・コミュニティ の創出に向けて

2030年 誰もが認める「善い地域」創出へ

◎右肩下がりの時代 → ◎新しいライフスタイルの模索

飯田の合計特殊出生率（2014）



「善い地域」の重要な要素

QOL (Quality of Life)
= 生活の質

- ◆ 可処分所得と可処分時間
- ◆ 命の質
- ◆ 人生の質



QOC (Quality of Community)
= コミュニティの質

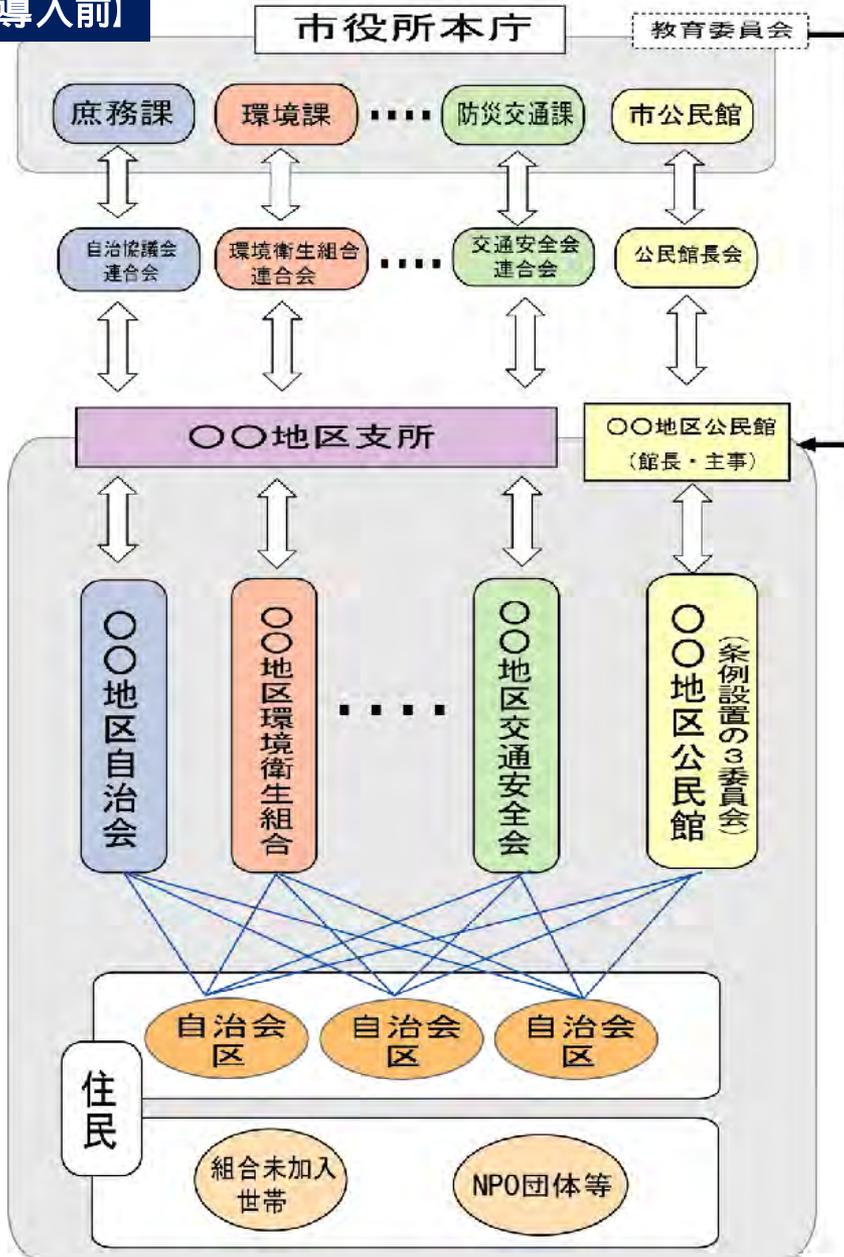
地域コミュニティの質を上げる3要素

- ① 主体的参画
- ② 自治性
- ③ 価値観の共有

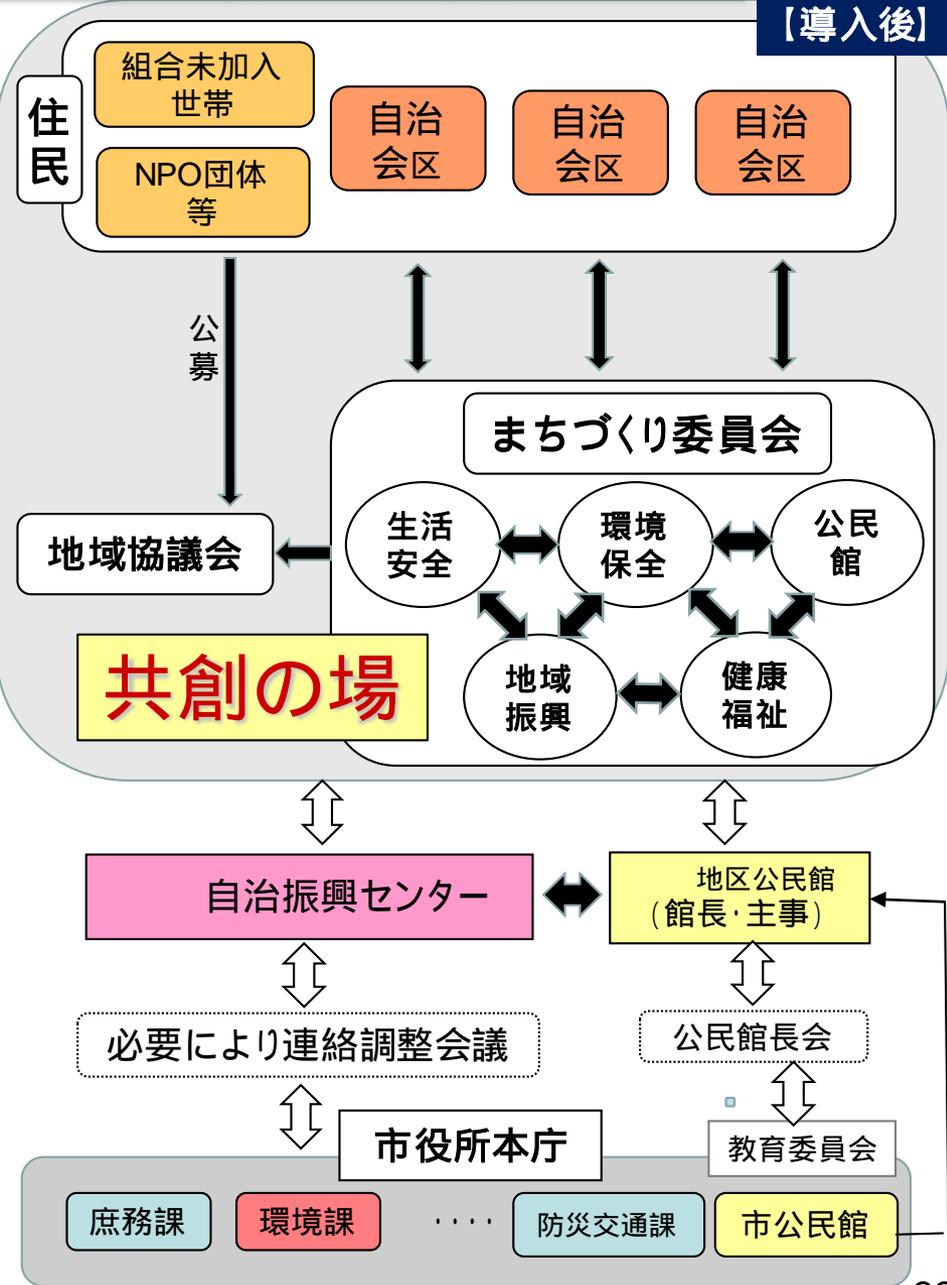


地域自治組織の再構築 ~ 「トップダウン」から「ボトムアップ」へ

【導入前】



【導入後】



QOCの向上 主体的参画 事例:市 政 懇 談 会

市長と市民が一堂に会し、市長自らが、市政経営の考え方や市政の重要課題を広く市民に語るとともに、地域の課題や市民の皆さんの思いを一緒に考え、意見交換する場

Before

行政への要望の機会（要望・陳情）であり、参加者は自治会の役員中心

あり方
の変化

After

提案・協働

行政への提案が増えた

（行政も一緒に してほしい）

幅広い世代の参加者が増えた

（小・中学生や若者といった地域の将来を担う人材）



QOCの向上 自治性 事例：菱田春草生誕地公園整備



菱田春草

明治7年仲ノ町
に生まれる



菊慈童

飯田市美術博
物館所蔵

- H22年 市政懇談会で公園化を提案
橋北地区で署名実施 7割同意
- H23年 「菱田春草誕生の地」整備を願う
市民の会設立 募金活動開始
市と橋北まちづくり委員会で
パートナーシップ協定締結
- H26年 公園工事实施
- H27年 「春草公園を愛する会」管理・活用

生誕地には塀と看板があるだけで
あまりにさみしい
春草を顕彰する公園の整備を



横山大観書のモニュメント

平成27年
3月29日
開園

地区住民自らが地域をデザインする地区基本構想を策定 20地区中17地区で制定 1地区策定中(平成29年度中)

- 地域住民自らが、地域の将来像を共有し、その実現に向けた構想・計画を策定
- 各地区の基本基想に基づき、地域の特色を活かしつつ、多様な主体の協働による様々な取組を通じて、将来像の実現を目指す



地域自治組織から創発するイノベーションの事例



**社会福祉法人
千代しゃくなげの会**
(H17.10.12 県知事認可)

< 千代しゃくなげの会基本理念のポイント >

- 1 地区一人一人が直接的又は間接的に運用に関与
- 2 地域の子どもやお年寄り地域で守り育てる



千代保育園 千栄分園

●平成24年度、25年度の2年連続
50名を超えたため、26年度は定員
を45名から60名に変更

園児数の推移

	17	18	19	20	21	22	23	24	25
千代 (3歳以上)	36	31	31	25	22	23	24	28	28
千代 (3歳未満)			3	3	6	8	12	14	17
千栄	6	11	12	16	14	12	9	11	12
総合計	42	42	46	44	42	43	45	63	57



飯田市千代デイサービスセンター「しゃくなげの郷」
通所デイサービス 定員15名

求められる共創の場づくり

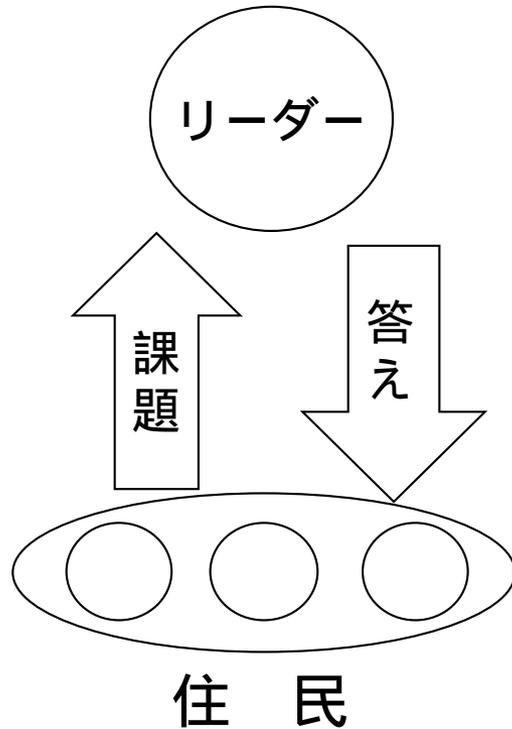
横展開を 図るための考察 ③



共創の場
づくり
に
不可欠な
プロセス

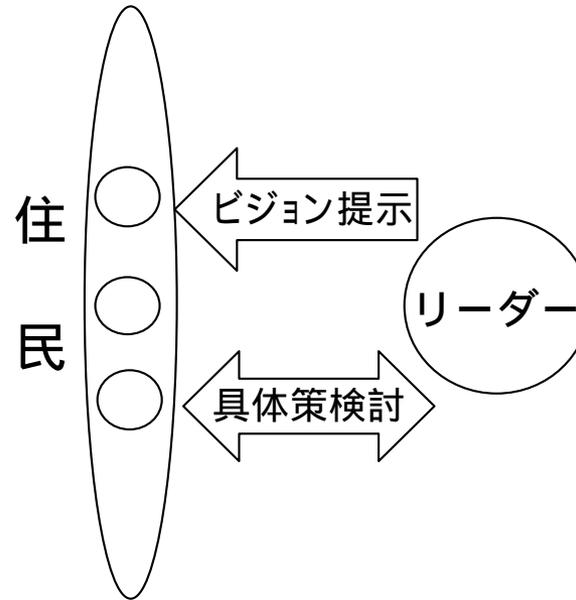
共創の場づくり求められるリーダーシップ

トップダウン型



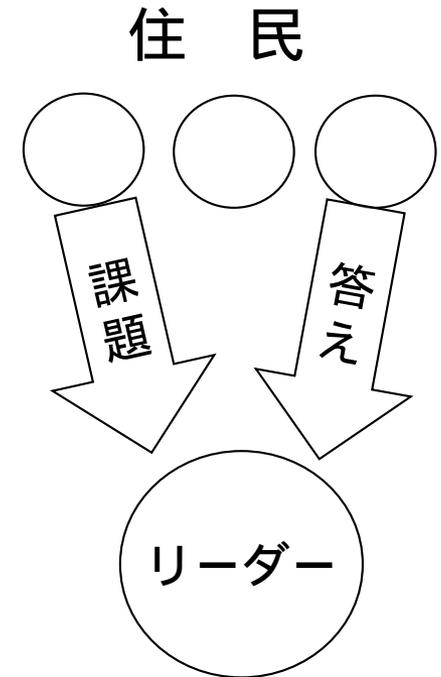
住民は受身の立場（選挙公約が典型的）
リーダーは全知全能ではないので、出せる答えは限られている（出せない場合は先送り）

キャッチボール型



リーダーはビジョンを提示
住民とキャッチボールをして具体策を検討
（例：将来ビジョンからバックキャスト）

ボトムアップ型



住民が主体的に課題の答えを見出す
リーダーは触媒（カタリスト）の機能を発揮

共創の場

「三重苦」の克服なくして地方創生なし、地方創生なくして日本の再生なし

・人口減少、少子化、
高齡化



人材サイクルの構築

(子育て世代を子育てしやすい地方へ)

・国も地方も財政難



経済再生・財政健全化の一体的改革

(地域の経済自立度向上、ボトムアップ
の行財政改革)

・自立心の欠如
= 「受け身の社会」



**自立志向のクリエイティブ・コミュニティ
の創出(「善い地域」の重要な要素)**



「競争」から**「共創」**へ

「トップダウン」から**「ボトムアップ」**へ

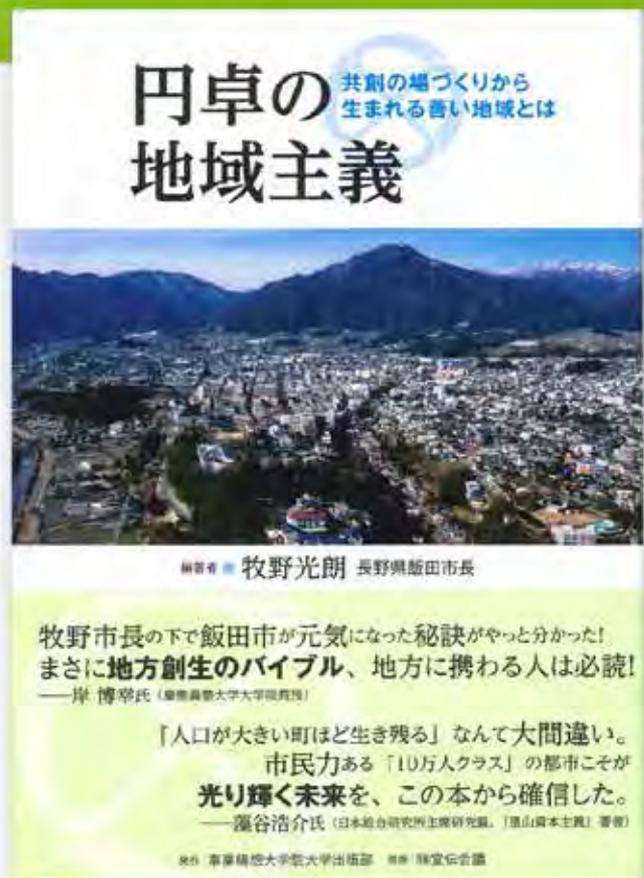
そして他よりはマシと考える「良い地域」から

誰もが認める**「善い地域」**へ

円卓の地域主義

第4章

I すべては当事者意識から始まる



はじめに ニッポンの若者へ
飯田からこれからの地域づくりを考える

1章 私と飯田

2章 輝ける世界の10万都市を目指して
—ドイツの都市を探索する—

3章 飯田型まちづくりの実践
—円卓から共創の場づくりへ—

4章 円卓の地域主義
—10万人規模の地方都市から地域を学ぶ
みなさんへのメッセージ—

鼎談 10万人規模の地方都市で生きるということ

ご清聴ありがとうございました。